

# 1 ムジナもんになった、ムジナモ

はにゆうしのほうぞうじぬまには、きれいなところでしか生きられない、めずらしいみずくさがあります。なまえはムジナモといいます。

「きょうは、ざあざあ雨がふってうれしいなあ。でも、こんなにくさはえていては、うごけないよお。くるしいよお。」

ムジナモはつぶやきました。すると、ながぐつをはき、かさをさしたいずみさんが、やってきました。

「だいぶくさがはえてきたなあ。」

と、いいながら、ぬまのまわりをみわたしました。

つぎの日のことです。いずみさんはさっそく、くさをかりはじめました。

そして、お日さまがしずむころ、

「これでよし、げんきにはなをさかせるんだよ。」

と、いずみさんはムジナモにこえをかけてかえっていききました。

ムジナモは、よろこびました。



「いずみさんにはなしたいな。」  
と、つよくねがったそのときです。

くキラキラく

「わあ、あるけるぞ。しゃべれるぞ。」

ムジナモは、ムジナもんにへんしんしました。

ムジナもんがすいぞくかんにいくと、いずみさんが、  
いけのそうじをしていました。

「いずみさん、こんにちは。」

ムジナもんはドキドキしながらはなしかけました。

「こんにちは。おや、きみは。」

「いつもおせわをしてもらっている、ムジナモです。」

いつもありがとう。」

と、ムジナもんがいうと、いずみさんは、にっこりして  
あたまをなでくれました。

ムジナもんは、スキップしながらかえっていきました。

なつのあつい日、ムジナモは白くかわいい花をたくさんさかせました。

